

視察報告書

大阪府豊中市 環境部 減量計画課

令和元年 8 月 15 日(木)



(於：豊中市環境部環境事業所)

松阪市議会議長 大平 勇 様

令和元年8月17日

松阪市議会

市民クラブ 楠谷さゆり

令和元年8月15日（木）、行政視察を実施致しましたので、下記のとおり報告致します。

記

1.参加者

楠谷さゆり

2.視察先及び視察事項

大阪府豊中市 環境部 減量計画課

フードドライブを通じた食品ロス削減に向けた取り組みについて

3.視察内容 別紙のとおり



大阪府豊中市 環境部 減量計画課

フードドライブを通じた食品ロス削減に向けた取り組みについて

日時： 8月15日（木）14:00～16:00

場所： 豊中市環境センター（豊中市走井2丁目5-5）

対応： 環境部減量計画課 課長 吉村 光章様

同 計画推進係 係長 鈴木 智也様

同 副主幹 内田 利行様

1. 豊中市の概要

面積 36.6 平方キロメートル（松阪市 624 平方キロメートル）

人口 39 万 9,731 人（松阪市 16 万 3863 人）

豊中市は、大阪市のベッドタウンとして発展。千里ニュータウンが特に有名である。北摂地域（7市3町）、兵庫県（伊丹市・尼崎市）とも隣接する。平成 24 年度に特例市から中核市へ移行した。

大阪国際空港、阪急宝塚線、大阪モノレール、北大阪急行など鉄道も多く乗り入れており、また、中国自動車道、名神高速道路、阪神高速道路も市内を走っているなど、各種交通の便が良いのが特徴である。

人口は微増しており、それと比例するように近年、ゴミの焼却処理量が増加している。焼却処理量を余力を持って処理できる範囲内に収めることが求められている。

2. 環境課がフードドライブを始めるに至ったきっかけ

平成 24 年度に家庭系ゴミ質調査を実施し、特に可燃ゴミを詳しく調べてみると、重量比で、可燃ゴミの約 4 割を生ゴミが占めることが判明した。さらに、生ゴミの組成分析をすると、一般厨芥類 88% 以外は、封も開けられていない手付かずの食品であることがわかった。そこで、平成 26 年度にもったいないの意識を高めるための情報提供として「とよなか食品ロス・ゼロハンドブック」を発行し、また絵本「きょうのきゅうしょくな～にかな」を作成して、小学校に上がる直前の未就学児に配布するなど、食品ロス削減のための啓発を始めた。

3. フードドライブの先駆的な取り組みの実施

多くの自治体では、ごみ減量の観点では環境部局、生活困窮者対策として福祉部局と、別個に対応がなされているが、豊中市では、環境部、こども未来部、健康福祉部の 3 つが部局を超えたスキームを構築し、環境部が各種イベント等でフードドライブ活動を呼びかけ、提供された食品は社会福祉協議会が受け取ることとなった。具体的な役割分担としては、豊中市減量計画課が、イベントの周知や PR、ブースの設置、食品の受付、食品の検品や計量、そして食品の運搬を行い、豊中市社会福祉協議会が食品の受け取り、受領証の発行、そして食品の配分を行うというものである。

平成 28 年 11 月に「豊中エコショップ 100 店舗到達記念フェスティバル」で試行実施したのを始めとして、29 年度から本格的に実施し、「ふれあい緑地フェスティバル」や「みんなあつまれわくわくらんど」のようなイベントだけでなく、市役所第二庁舎ロービーでの「オフィスフードドライブ」、マンションの管理組合主催で建物のエントランスでの開催など、29 年度実施実績としては、合計 139 人が参加して、324.17kg の食料品を集めることができた。また、30 年度からは、ダイエー 3 店舗にて食品回収ボックスを毎月第 3 月曜日～翌日曜日までの 1 週間常時設置し、食品回収

を始めた。さらに今年度は引き続きダイエーや市のイベントで実施する以外にも、地域のお祭りや体育祭、文化祭でも食品回収を始めている。

フードドライブで回収した食料品については、一部はこども食堂運営団体に運搬し、それ以外は豊中市社会福祉協議会が預かり、支援を必要とする人々に届けられている。

4. 質疑応答

Q:「とよなか食品ロス・ゼロハンドブック」や、絵本「きょうのきゅうしょくな～にかな」の効果は。また、予算はどのくらいか。

A:絵本は市内のこども園の年長児に配布し、その保護者にはハンドブックを配布し、食品ロスの削減に関する周知を行なっている。結果、「子どもがご飯を残さず食べるようになった」等のお礼の手紙が届くなどの効果を上げている。また、着実に食品ロスの削減に向けた意識が広がっていると感じられる。予算は、両方合わせて毎年度約40万円である。

Q:協働の取り組みに関する意見交換会とはどのような団体が参加しているのか。またどのくらいの規模で、評価はどう捉えているか。

A:年1度の開催を決めており、30年度には、豊中市（減量計画課、こども政策課）、豊中市社会福祉協議会、庄内南みんなの食堂、千里中央子ども食堂、の4団体、計62人が参加。目的は、環境分野と福祉分野、それぞれの様々な問題の解決に向けて、異なる分野の協働による統合的解決を目指すものである。環境分野の問題の一つであるフードロスと、福祉分野の課題の一つである子どもの居場所づくりが、フードドライブの取り組みから子ども食堂への食品の提供という道筋をつけることで、一つの解決法とすることができた。本年度は、「学校における多様な主体による環境学習」というテーマで、8月23日に開会の予定である。

Q:防災の備蓄食料品で賞味期限が迫ってきているものについては、食品ロスとならないようにどう活用しているか。

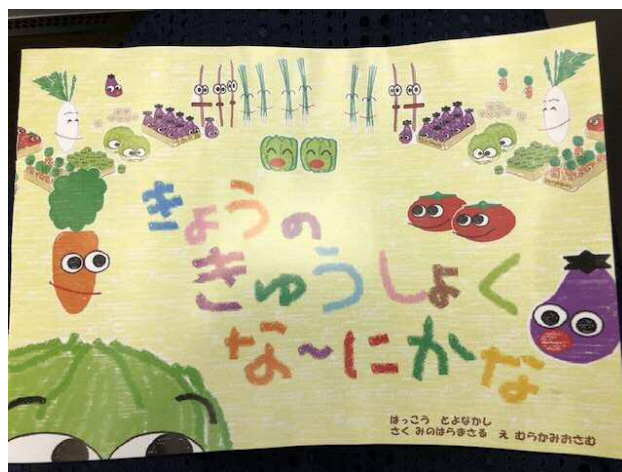
A:豊中市では災害時の備えとして、アルファ化米とカロリーメイトを備蓄している。それぞれ賞味期限が1年を切った時点で、地域で開催される防災イベントにて、市民への無償提供を行なっている。現在、大阪府が示す備蓄方針の見直しに伴い、豊中市でも見直しを検討しており、備蓄量が増加した場合には、フードバンクへの提供等も考えている。

5. 所感

松阪市ではまだまだ市民権を得られていない「フードドライブ」という取り組みも、市が率先して行なっていることで、豊中市では定着してきているようである。また、ダイエーが社会福祉協議会と協定を結び積極的に関わっていることも、市民の食料品回収に大きく貢献しているように見え

る。それぞれのイベントが過去には単発で行われていたのが、異なる分野が協働することで統合的解決に繋がることが可視化され、会議に参加する人まで増加傾向だという。ただ課題として、仕組みづくりの不十分なところがあり、提供から分配までの時間がかかり、現在は賞味期限が1ヶ月あるものとしているのを、将来的には賞味期限2週間のものまで回収できるよう、時間短縮したいという。また、現在、飲食店や事業者向けのハンドブックも検討している。活動がすでに定着しているため、課題や問題点が具体的であり、今後とも市民と行政、そして企業の協働事業モデルとして改良されていくと思われる。

松阪市にも、フードロス削減と福祉事業を連携する先進事例として、独自のモデルを考える参考となるはずである。



以上